

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
ICTサービスによる 持続可能な社会への貢献		環境課題の解決に向けた 革新的技術の開発		エネルギー効率 トップレベル製品の開発	製品の省資源化・ 資源循環性向上	製品の資源再利用		

製品の資源再利用

富士通グループのアプローチ

富士通グループのリサイクル活動は、製品の設計・製造段階だけでなく廃棄やリサイクルの段階まで生産者が責任を負うという「拡大生産者責任(EPR)」の考え方、および自社の製品に対して責任を負う「個別生産者責任(IPR)」の考え方に基づいています。富士通グループにとって、IPRはビジネスを全世界に拡大するうえでの大きな挑戦ですが、EPRも含めてこれらへの対応を業界団体や各国政府と連携しながら進めることによって、すべての利害関係者の要件や要請を満たした資源循環型の社会づくりに貢献できると考えています。

この認識の下、富士通グループは、各国の廃棄物処理やリサイクルの法規制に添ったリサイクル活動を推進しています。日本では「資源有効利用促進法」に基づき、産業廃棄物広域認定制度の認定業者である富士通が、国内各地の富士通リサイクルセンターで産業廃棄物の適正処理を受託しています。さらに、回収が義務付けられていない国でもIPRの考えに添って、可能な限りの回収、再利用、リサイクルを進めています。

2016年度の実績サマリー

第8期環境 行動計画の 目標 (2018年度末まで)	富士通リサイクルセンターにおける 事業系ICT製品の資源再利用率 90% 以上を維持する。
2016年度 目標	90% 以上
2016年度 実績	92.0% 達成

2016年度の実績・成果

ICT製品のリサイクルを推進

富士通グループは日本国内において、全国をカバーするリサイクルシステムを構築。徹底したトレーサビリティとセキュリティを確保しながら、高い資源再利用率を達成するなど、安心・安全なサービスの提供を通じて、拡大生産者責任(EPR)を確実に実践しており、ICT製品のリサイクルを推進しています。

資源再利用率90%以上を達成

国内の法人のお客様から回収したICT製品(事業系使用済みICT製品)の処理量は4,185トン、資源再利用率92.0%でした。また、個人のお客様の使用済みパソコンの回収台数は61,435台でした。

事業系使用済みICT製品の資源再利用率の推移(国内)

年度	2013	2014	2015	2016
資源再利用率(注)(%)	91.3	90.9	92.0	92.0
処理量(トン)	5,035	5,016	5,203	4,185

(注) 資源再利用率:使用済み製品の処理量に対する再生部品・再生資源の重量比率。

個人のお客様の使用済みICT製品の回収台数の推移(国内)

年度	2013	2014	2015	2016
使用済みパソコン回収 台数(台)	98,549	103,276	69,801	61,435

TOPICS 香港WEEEリサイクル協会が富士通の東日本リサイクルセンターを訪問

2017年2月、FHK(富士通香港)のEMS委員会の支援により、香港WEEEリサイクル協会が福島にある富士通東日本リサイクルセンターを訪問し、技術見学を行いました。リサイクルセンターでは、廃棄物レベルをほぼゼロにするためのリサイクルの仕組みや素材の処置方法などを紹介しました。

香港では、毎年およそ7万トンも電気・電子機器廃棄物(WEEE)が排出されており、そのほとんどが他国に輸出され、有価な材料は再利用または回収されています。しかし近年では、WEEEに対する国際的な貿易規制が厳しくなり、香港以外の地域で中古製品に対する市場も縮小しています。そのためWEEEの輸出に依存するのではなく、WEEEのリサイクルを推進していく必要が高まっています。

香港WEEEリサイクル協会は、香港政府の環境方針の下、世界各地の電子廃棄物リサイクルを学び、香港での実用化を促進する団体です。同協会の副会長(Vice President)を務め、今回の訪問にも参加したEddie Chan氏からは「この技術見学はとても有益なものでした。なぜなら、リサイクル品からより多くの収益をどのように生み出すかを学べたからです。とても清潔なリサイクル工場でした」との感想が寄せられました。



香港WEEEリサイクル協会の皆様



見学の様子